

龍谷大学文学部真宗学科

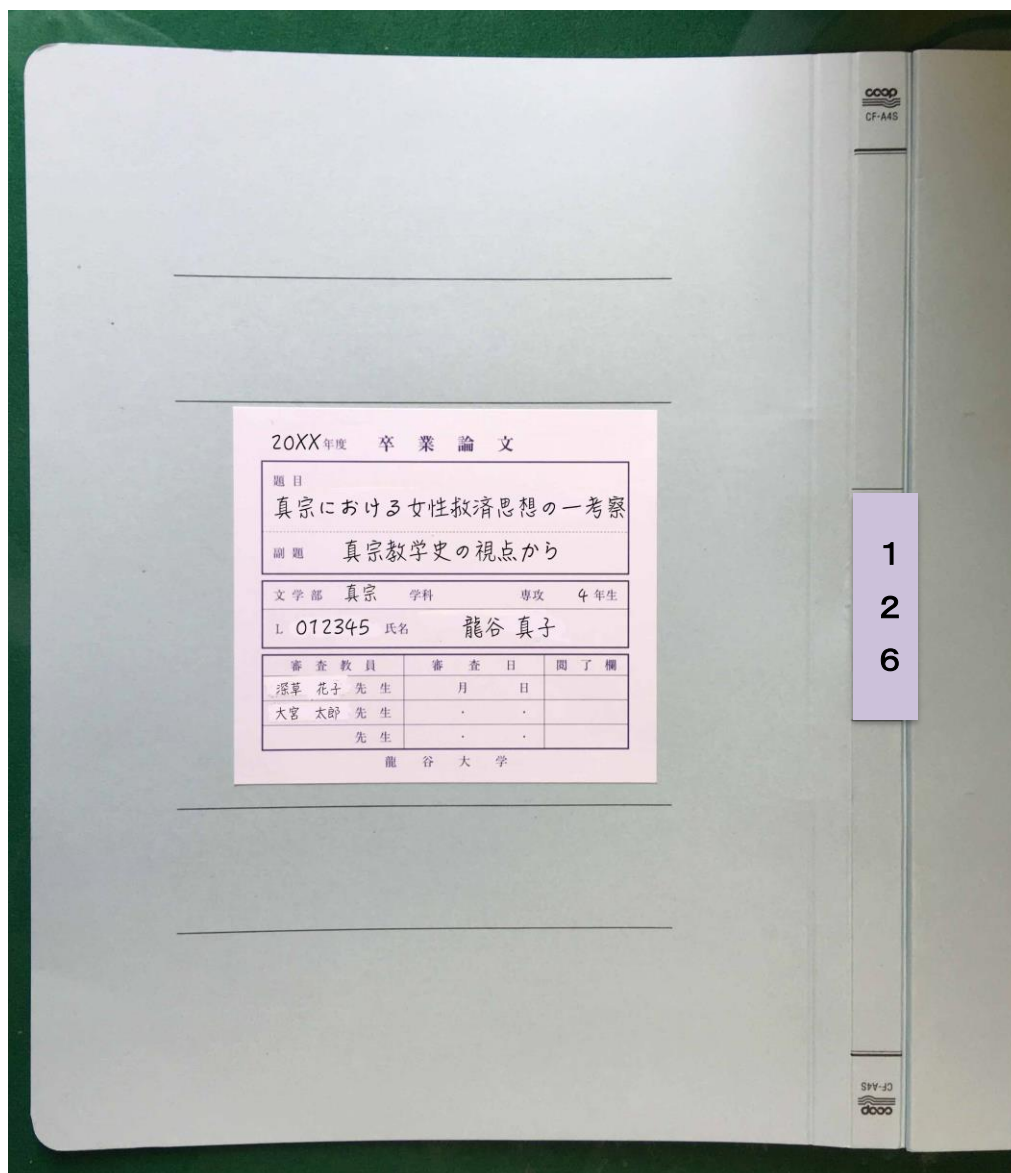
卒業論文作成マニュアル

2025年度版（別冊）

卒業論文の基本的な書式等の例（縦書仕様）

- 「装丁例」
- 「中表紙例」
- 「目次例」
- 「本文構成例（序論、本論、結論）」
- 「本文構成例（引用文）」
- 「本文構成例（註）」
- 「参考文献例」
- 「正誤表例」

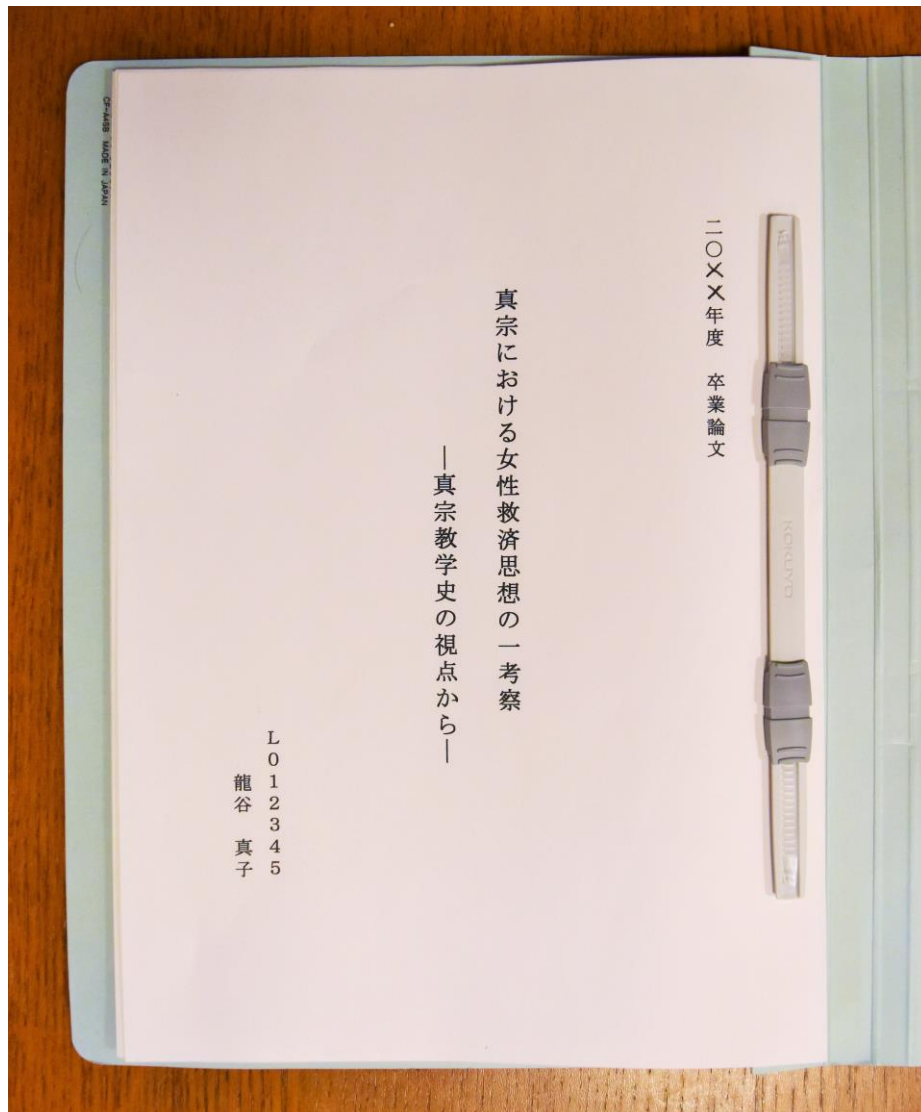
「装丁例」 （縦書）



装丁…指定されたペーパーファイルにパンチ（2穴）した用紙を綴じ込む。使用するファイルのサイズは使用する用紙に合わせたもの（原則としてA4用紙サイズ）を使用すること。ファイルの色は学科専攻別に指定色が異なるので注意すること。ファイルには教務課で配付される「題目記入用紙」を貼付し、ファイルの背表紙には「整理番号」を記入する。

なお背表紙に記入する整理番号は、卒論題目提出後に指定される。この整理番号は学籍番号とは異なるので注意すること。またファイルに用紙を綴じ込む際には、縦書き、横書きに合わせて綴じ方を間違えないよう注意する。ファイルの色と整理番号については教務課より掲示板等で指示があるので、それに従うこと。

「装丁例」（縦書）



本文の前に、論文の題目、学籍番号、氏名を記した「中表紙」をおく。ファイルに用紙を綴じ込む際には、綴じ方を間違えないよう注意すること。

二〇二五年度 卒業論文

漢数字を使用
すること

真宗における女性救済思想の一考察

—真宗教学史の視点から—

全角縦書き文
字・数字を使用
すること

L
O
1
2
3
4
5

龍谷 真子

指定枚数を超過
する場合などは
中表紙に指導教
授の印鑑が必要
となることに注
意すること。

「目次例」 (縦書)

目次

見出し項目は論・章・節などの順に一字ずつ下げる。註・参考文献にはページ数は不要。

「本文構成例（序論、本論、結論）」（縦書）

序論

[illegible]

(中略)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

(序論、本論、結論の間は3行空ける)

本論

第一章 浄土教における女人救済思想

第一節 浄土教の女性觀

[illegible]

(中略)

[illegible]

(各節、項の間は1行あける)

第二節 浄土教における「女人往生」と「變成男子」

[illegible]

第二章 親鸞における「女人成仏」の思想

第一節 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

（序論、本論、結論の間は3行空ける。）

結論

「本文構成例（序論、本論、結論）」（縦書）

- ・ 各ページの上下左右に2・5 cm以上の空白をとり、文字サイズ・文字間・行間のバランスが取れるに配慮して表記すること。
- ・ 縦書の場合は、1行につき全角50字、1ページにつき16行（1ページにつき800字、右綴じ）。
- ・ 本文の文字フォント・サイズ…明朝体で10・5ポイントを基本とする。
- ・ ページ数は各ページの中央下部に、算用数字で記入すること。

「本文構成例（引用文）」（縦書）

1. 比較的短い引用文の場合

引用文が、比較的短い場合（本文中で2行を超えない場合）には、その文章を「一重カギ括弧」（「」）で括って引用する。

[illegible]

て、△△△氏は日本思想史の研究者の視点から「この親鸞の『唯信鈔文意』の文意について、△△△氏は日本思想史の研究者の視点から」¹という新しい解釈を提示している。

「本文構成例（引用文）」（縦書）

2. 引用文が長い場合

引用文が長い場合（本文中で2行を超える場合）、引用文の前後を改行し、引用文の全体を行頭から2字下げた形で示す。この場合には、引用文の前後にカギ括弧は付さない。

2 字下げした引用文の前後の行は空けない。

[illegible]

(頁○○『註釈版』)

[illegible]

この親鸞の『唯信鈔文意』の文意について、△△△△氏は日本思想史の研究者の視点から、次のような新しい解釈を示している。

「本文構成例（引用文）」（縦書）



注意…引用文の長短に拘らず、すべての引用文の末尾には、必ずその出典箇所を註記すること。もし出典箇所が明示されていない場合は、その部分は盗用と判断される。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

[illegible]

1 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

[illegible]

- 1 矢田了章「二種深信の教理史的考察」、『真宗学』八三、四頁。
- 2 信楽峻麿『浄土教における信の研究』五〇五頁。
- 3 矢田了章「二種深信の教理史的考察」七頁。
- 4 矢田了章「二種深信の教理史的考察」二八―二九頁。
- 5 信楽峻麿『浄土教における信の研究』三五二頁。
- 6 梯 實圓『法然教学の研究』二九一―二九二頁。
- 7 矢田了章「二種深信の教理史的考察―法然・隆寛・聖覚における―」、『真宗学』九九・一〇〇、一六五頁。
- 8 勸学寮編『安心論題綱要』二九頁。
- 9 内藤知康『安心論題を学ぶ』一一七頁。
- 10 普賢大円『真宗概論』一五四頁。
- 11 土井忠雄『真宗研究序説』三八八頁。
- 12 信楽峻麿『親鸞における信の研究』上、二八六頁。
- 13 信楽峻麿『親鸞における信の研究』上、二九二―二九三頁。
- 14 桐溪順忍『救済の論理』四二三―四二四頁。
- 15 曾我量深『歎異抄聴記』三一頁。

参考文献

書籍

- 信楽峻磨『親鸞における信の研究』上、永田文昌堂、一九九〇年
 信楽峻磨『浄土教における信の研究』永田文昌堂、一九七五年
 普賢大円『真宗概論』百華苑、一九九四年
 桐溪順忍『救済の論理』教育新潮社、一九八七年
 曾我量深『歎異抄聴記』真宗大谷派宗務所出版部、一九九九年
 土井忠男『真宗研究序説』百華苑、一九七八年
 梯實圓『法然教学の研究』永田文昌堂、一九八六年
 勧学寮編『安心論題綱要』本願寺出版社、一九八二年
 勧学寮編『浄土三部経と七祖の教え』本願寺出版社、二〇〇八年

論文

- 石田充之「『観經彌陀經集註』に示される親鸞聖人の思想について」『龍谷大学論集』三九四、一九六〇年
 鈴木大拙「妙好人、浅原才市を読み解く」『松ヶ丘文庫研究年報』二七、二〇一三年
 増谷文雄「キリスト教における信仰と浄土門の仏教における信仰について」『仏教とキリスト教の比較研究』第三篇一二章 筑摩書房、一九六八年
 村上速水「現生正定聚の理解」『龍谷教学』二三、一九八八年
 矢田了章「二種深信の教理史的考察」『真宗学』八三、一九九九年
 矢田了章「二種深信の教理史的考察」法然・隆寛・聖覚における「一九九・一〇〇、二〇〇一年

「正誤表例」（縦書）

正誤表

参考文献	註 8	2 0	1 3	6	5	頁
		9	1 4	8	2	行
矢田了章「二種人心の教理史的考察」『信州学』83	関学寮編『安心論題紅葉』	『真聖全』二、六四七頁	法性身	という。	『一年多年文意』	誤
矢田了章「二種深信の教理史的考察」『真宗学』83	勸学寮編『安心論題綱要』	『真聖全』二、六四九頁	法性法身	といい、	『一念多念文意』	正